



委員長メッセージ

～2022年度 公募開始に寄せて～

今年度も「STI for SDGs」アワードの募集を開始しました。本アワードは、科学技術イノベーション（STI）がSDGs（持続可能な開発目標）の達成に一層貢献することを目標に2019年度に創設され、今年で4回目となります。制度創設以来、国内に多数存在する科学技術を活用した優れた取組を見出し、それをさらに発展させていくことを目指してきました。毎年多数のご応募をいただいておりますが、特に昨年度は大学生、高校生の次世代を担う方々が主体となった活動の応募が増えました。いずれも社会の課題に真摯に向き合うもので、非常に頼もしく感じました。

一方で、SDGs そのものへの世の中の認知や理解は進んではいるものの、まだその達成は十分ではありません。昨今の社会では、残念ながら、コロナ禍での経済の悪化が引き起こす貧困や格差の拡大、化石燃料への依存の継続など、その達成への流れに逆行するようなできごとすら数多く見られます。SDGsがゴールと定めている2030年に向けた折り返しの年になった今、科学技術の力を使ってさらに大きな社会の変革を進める必要があります。このことから、今年度は「公正な移行（Just Transition）」も重要なテーマとして審査を行います。

「公正な移行」とは、“環境・経済・社会それぞれの安定を守りながら、より良い持続可能な社会を作っていく”ことを示す言葉であり、気候変動への対応の中でよく使われます。ただし、これは必ずしも分野を限定するものではないと考えています。SDGsの達成を目指す過程では、ともすればトレードオフが発生し、ある課題を解決してもその裏で別の面で取り残されてしまう人々が生じることも珍しくはありません。そのようなトレードオフを解消する、または起こさないようにすること、つまり「公正な移行」が実現できれば、気候変動への対応だけでなくどんな分野でも社会変革はさらに大きく進むと思われます。そこに科学技術の力を役立てることは非常に大きな意義があります。そのような視点での活動が行われている皆様からのご応募も歓迎します。

本アワードでは、大きな社会変革を起こすために、受賞取組の水平展開に向けて、取組内容の紹介機会を作ることや発展のためのネットワーク形成なども一層強力に進めていきたいと思っています。皆様からのご応募をお待ちしています。

2022年4月

「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長 蟹江 憲史
(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)